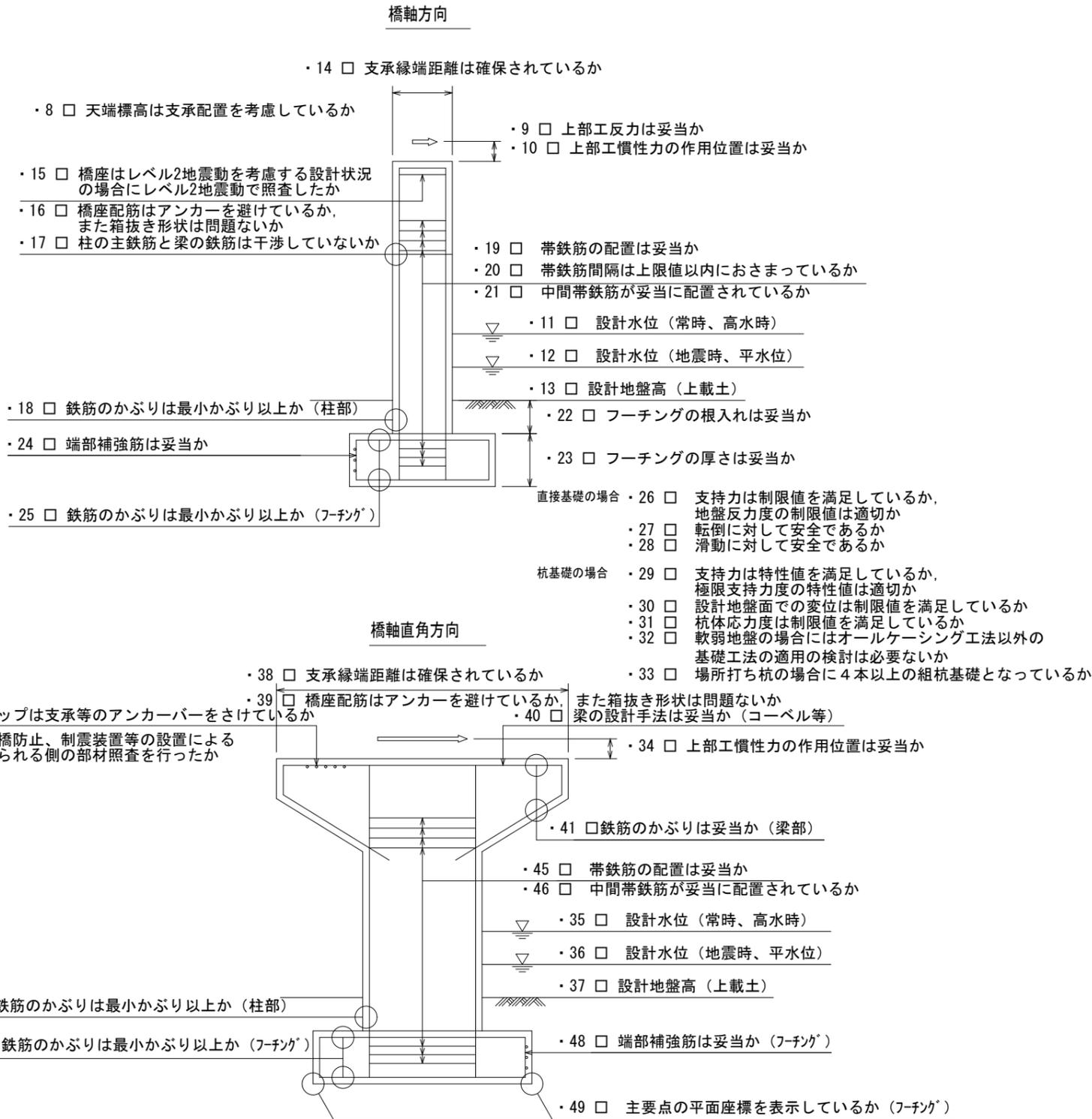


【基本条件の照査】

- ・ 1 鉄筋のフック及び鉄筋の曲げ形状は妥当か
- ・ 2 梁スターラップの組方は妥当か
- ・ 3 柱帯鉄筋の組方は妥当か
- ・ 4 継手長位置のずらし（25φ以上）は妥当か
- ・ 5 中間帯鉄筋の組方は妥当か
- ・ 6 中間帯鉄筋の継手長（40φ以上）は妥当か
- ・ 7 継手長は妥当か



| 番号 | 確認 | 確認日 | 確認資料、チェック結果 |
|---------|-----------|-----------|---|
| 照査項目の番号 | 照査項目に✓を記入 | 確認した日付を記入 | 確認できる資料の名称、頁等を記入、チェック結果を簡潔に記入（例）関連基準類、過年度成果の該当頁、妥当性判断の根拠等 |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |
| 16 | | | |
| 17 | | | |
| 18 | | | |
| 19 | | | |
| 20 | | | |
| 21 | | | |
| 22 | | | |
| 23 | | | |
| 24 | | | |
| 25 | | | |
| 26 | | | |
| 27 | | | |
| 28 | | | |
| 29 | | | |
| 30 | | | |
| 31 | | | |
| 32 | | | |
| 33 | | | |
| 34 | | | |
| 35 | | | |
| 36 | | | |
| 37 | | | |
| 38 | | | |
| 39 | | | |
| 40 | | | |
| 41 | | | |
| 42 | | | |
| 43 | | | |
| 44 | | | |
| 45 | | | |
| 46 | | | |
| 47 | | | |
| 48 | | | |
| 49 | | | |

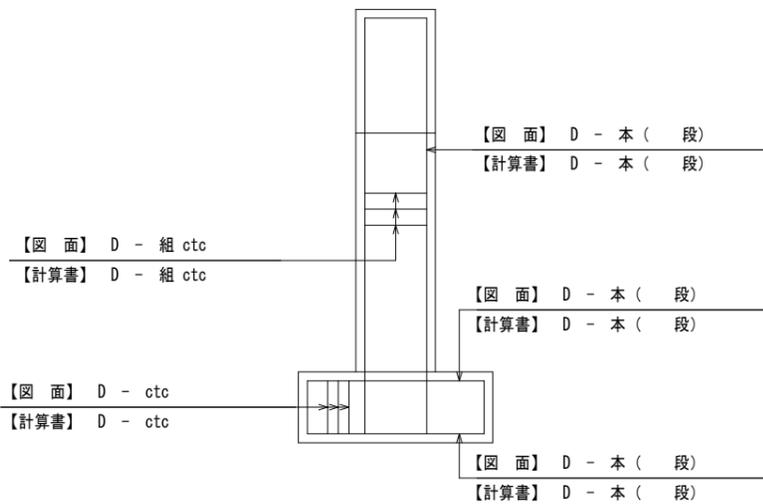
【設計計算書と図面の照査】

- ・50 □ フーチングの上面主鉄筋は、下面主鉄筋の1/3以上配置しているか
- ・51 □ フーチングの配力鉄筋は主鉄筋及び圧縮鉄筋それぞれの1/3以上を配置しているか
- ・52 □ 設計計算書と図面の照合は取れているか

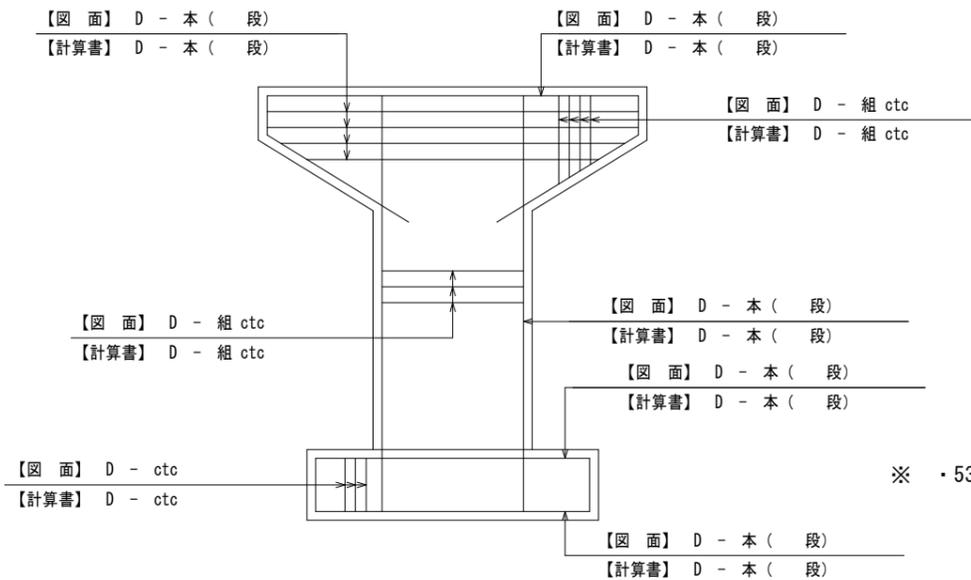
| 番号 | 確認 | 確認日 | 確認資料、チェック結果 |
|---------|-----------|-----------|--|
| 照査項目の番号 | 照査項目に✓を記入 | 確認した日付を記入 | 確認できる資料の名称、頁等を記入、チェック結果を簡潔に記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁、妥当性判断の根拠等 |
| 50 | | | |
| 51 | | | |
| 52 | | | |
| 53 | | | |

[参考文献] 道路橋示方書・同解説（日本道路協会）平成29年11月

橋軸方向



橋軸直角方向



※ ・53 □ コンクリート1m³当たりの鉄筋量は妥当か

| | No. | チェック項目 | 留意点など |
|--------------------|-----|--|---|
| 基本条件の照査 | 1 | 鉄筋のフック及び鉄筋の曲げ形状は妥当か【IV_p.73】 | 鉄筋径を考慮した曲げ半径, 延長となっているか確認。※機械式定着鉄筋を使用する場合は確認。 |
| | 2 | 梁スターラップの組方は妥当か【IV_p.74】 | せん断補強筋は, 引張鉄筋を取り囲み, フックまたは定着体で圧縮側に定着しているか確認。 |
| | 3 | 柱帯鉄筋の組方は妥当か【IV_p.74】 | 帯鉄筋は, 部材の全長にわたって配置し, 間隔は300mm以下, 断面内部のコンクリートにフックをつけて定着することを標準とする。 |
| | 4 | 継手長位置のずれ(25φ以上)は妥当か【III_p.86】 | 一断面に集中しないよう配慮しているか。やむを得ない場合は, 継手の種類や間隔, 位置を検討しているか。 |
| | 5 | 中間帯鉄筋の組方は妥当か【IV_p.75】 | 配置間隔は, 鉛直方向は部材の有効高の1/2以内, 水平方向は1m以内としているか確認。 |
| | 6 | 中間帯鉄筋の継手長(40φ以上)は妥当か【V_p.147】 | 塑性変形性能を確保するため, 通常より長く定着をとる。 |
| | 7 | 継手長は妥当か【III_p.84】 | 鉄筋の種類及びコンクリート強度で継手長を決定しているか確認。 |
| <橋軸方向> | | | |
| 設計基本条件 | 8 | 天端標高は支承配置を考慮しているか | 上部工桁下と下部工天端間に支承及び沓座モルタル等の厚みを考慮しているか確認。※斜橋や曲線橋の場合は, 支承セット方向に留意。 |
| | 9 | 上部工反力は妥当か | 上部工反力は振動特性を考慮した値となっているか確認。 |
| | 10 | 上部工慣性力の作用位置は妥当か【V_p.82】 | 橋軸方向と橋軸直角方向の慣性力の作用位置を確認しているか。※発注者により異なる場合があるため確認が必要。 |
| | 11 | 設計水位(常時、高水時) | 設計水位の根拠は整理しているか, また入力値は正しいか確認。 |
| | 12 | 設計水位(地震時、平水位) | 地震時は, H.W.Lと平水位の1/3としているか確認。※各地域の基準書を確認。 |
| | 13 | 設計地盤高(上載土) | 設計地盤高は, 計画の高さと整合しているか。上載土の土質定数は適切か。 |
| 橋座 | 14 | 支承縁端距離は確保されているか【IV_p.115-118】 | 支承アンカーからの縁端距離が確保されているか確認。 |
| | 15 | 橋座はレベル2地震動を考慮する設計状況の場合にレベル2地震動で照査したか【IV_p.118】 | 支承をレベル2地震動で設計する場合, 沓座が支承から伝達される水平力等に耐えうる断面, 配筋としているか確認。 |
| | 16 | 橋座配筋はアンカーを避けているか, また箱抜き形状は問題ないか | 支承アンカーや落橋防止等のアンカーとの取り合いを確認する。※支承アンカー箱抜きは, アンカーボルトの径dの時, $3 \times d$ かつ $d+100\text{mm}$ (H30支承便覧, p.303) |
| 柱部 | 17 | 柱の主鉄筋と梁の鉄筋は干渉していないか | 張出を設ける場合, 梁部と柱部鉄筋の干渉を確認する。 |
| | 18 | 鉄筋のかぶりは最小かぶり以上か(柱部)【IV_p.71】 | 最も外側の鉄筋(帯鉄筋等)のかぶりが確保できているか確認する。 |
| | 19 | 帯鉄筋の配置は妥当か【IV_p.74】 | 帯鉄筋は, 部材の全長にわたって配置し, 間隔は300mm以下を標準としているか確認。 |
| | 20 | 帯鉄筋間隔は上限値以内におさまっているか【IV_p.74】 | 帯鉄筋の間隔は, 間隔は300mm以下としているか確認。 |
| | 21 | 中間帯鉄筋が妥当に配置されているか【IV_p.74】 | 配置間隔は, 鉛直方向は部材の有効高の1/2以内, 水平方向は1m以内としているか確認。 |
| フーチング | 22 | フーチングの根入れは妥当か | 河川橋の場合, 低水路部及び高水敷(低水路から20m以内の範囲)は最深河床から2.0m以上, 高水敷(低水路から20m以上離れた位置)は1.0m以上確保しているか確認。 |
| | 23 | フーチングの厚さは妥当か【IV_p.126】 | 柱や壁又は柱との接合部として, 固定支持として検討している場合は, フーチングが剛体として取り扱える断面を確保している必要がある。 |
| | 24 | 端部補強筋は妥当か【杭基礎設計便覧, p.308】 | 柱とフーチング縁端部との距離が1.0m以下の場合は, 端部補強鉄筋はD19以上200mm 間隔以下で配置する。 |
| | 25 | 鉄筋のかぶりは最小かぶり以上か(フーチング)【IV_p.71】 | 主鉄筋の外側の鉄筋が所要のかぶりを確保しているか確認。 |
| 基礎の安定照査 直接基礎の場合 | 26 | 支持力は制限値を満足しているか, 地盤反力度の制限値は適切か【IV_p.202】 | 地盤反力度の制限値は, 支持層の種類を適切に考慮した値となっているか確認。 |
| | 27 | 転倒に対して安全であるか | 各荷重ケースにおいて, 偏心量が基礎の変位の制限値及び限界状態1の制限値を超えないことを確認する。 |
| | 28 | 滑動に対して安全であるか | 各荷重ケースにおいて, 水平荷重がせん断地盤反力の制限値及び限界状態3の制限値を超えないことを確認する。 |

| | No. | チェック項目 | 留意点など |
|-------------------|-----|--|--|
| 基礎の安定照査 杭基礎の場合 | 29 | 支持力は特性値を満足しているか、極限支持力度の特性値は適切か【IV_p.239】 | 杭の工法及び地盤の種類に応じて適切な極限支持力度が設定されているか確認。 |
| | 30 | 設計地盤面での変位は制限値を満足しているか【IV_p.254】 | ξ1の設定値は適切に考慮された制限値となっているか確認。 |
| | 31 | 杭体応力度は制限値を満足しているか | 杭体応力度は制限値以内であり、適切な応力度であるか確認。 |
| | 32 | 軟弱地盤の場合にはオールケーシング工法以外の基礎工法の適用の検討は必要ないか【IV_p.179】 | 軟弱地盤では、ケーシング引抜き後に孔壁に作用する外力により杭の断面が細くなる場合があるため注意が必要。 |
| | 33 | 場所打ち杭の場合に4本以上の組杭基礎となっているか【IV_p.179】 | 杭基礎を選定する場合は、2×2列以上配置する。 |
| <橋軸直角方向> | | | |
| 設計基本条件 | 34 | 上部工慣性力の作用位置は妥当か【V_p.82】 | 橋軸方向と橋軸直角方向の慣性力の作用位置を確認しているか。※発注者により異なる場合があるため確認が必要。 |
| | 35 | 設計水位(常時、高水時) | 設計水位の根拠は整理しているか、また入力値は正しいか確認。 |
| | 36 | 設計水位(地震時、平水位) | 地震時は、H.W.Lと平水位の1/3としているか確認。※各地域の基準書を確認。 |
| | 37 | 設計地盤高(上載土) | 設計地盤高は、計画の高さと整合しているか。上載土の土質定数は適切か。 |
| 橋座 | 38 | 支承縁端距離は確保されているか【IV_p.115-118】 | 支承アンカーからの縁端距離が橋軸直角方向に確保されているか確認。 |
| | 39 | 橋座配筋はアンカーを避けているか、また箱抜き形状は問題ないか | 支承アンカーや落橋防止等のアンカーとの取り合いを確認する。※支承アンカー箱抜きは、アンカーボルトの径dの時、 $3 \times d$ かつ $d+100\text{mm}$ (H30支承便覧, p.303) |
| 梁部 | 40 | 梁の設計手法は妥当か(コーベル等)【III_p.137】 | 梁の形状が、高さhと張出長さlの比(h/l)が1.0以上の片持ちばりである場合、コーベルとして設計する。計算方法は道示III5.8.2(4)の規定を満足する必要がある。 |
| | 41 | 鉄筋のかぶりは妥当か(梁部) | 最も外側の鉄筋のかぶりが確保できているか確認する。 |
| | 42 | スターラップは支承等のアンカーバーを避けているか | 支承アンカーや落橋防止等のアンカーとの取り合いを確認する。 |
| | 43 | 支承、落橋防止、制震装置等の設置による取り付けられる側の部材照査を行ったか【IV_p.115】 | 支承や落橋防止構造の取付部(沓座、沓座前面等)は、それら構造から伝達される力に対し、抵抗可能な断面、配筋であるか確認する。 |
| 柱部 | 44 | 鉄筋のかぶりは最小かぶり以上か(柱部)【IV_p.71】 | 最も外側の鉄筋(帯鉄筋等)のかぶりが確保できているか確認する。 |
| | 45 | 帯鉄筋の配置は妥当か【IV_p.74】 | 帯鉄筋は、部材の全長にわたって配置し、間隔は300mm以下を標準としているか確認。 |
| | 46 | 中間帯鉄筋が妥当に配置されているか【IV_p.74】 | 配置間隔は、鉛直方向は部材の有効高の1/2以内、水平方向は1m以内としているか確認。 |
| フーチング | 47 | 鉄筋のかぶりは最小かぶり以上か(フーチング)【IV_p.71】 | 最も外側の鉄筋(帯鉄筋等)のかぶりが確保できているか確認する。 |
| | 48 | 端部補強筋は妥当か【杭基礎設計便覧, p.308】 | 柱とフーチング縁端部との距離が1.0m以下の場合、端部補強鉄筋はD19以上200mm間隔以下で配置する。 |
| | 49 | 主要点の平面座標を表示しているか(フーチング) | 座標図等にフーチング端部の点等の座標を表記しているか、その他示すべき主要点はないか確認。 |
| 【設計計算書と図面の照査】 | 50 | フーチングの上面主鉄筋は、下面主鉄筋の1/3以上配置しているか【IV_p.142】 | 単位長さ当りの下面主鉄筋に対する上面主鉄筋の鋼材量を確認。 |
| | 51 | フーチングの配力鉄筋は主鉄筋及び圧縮鉄筋それぞれの1/3以上を配置しているか【IV_p.142】 | 単位長さ当りの主鉄筋に対する配力鉄筋の鋼材量を確認。 |
| | 52 | 設計計算書と図面の照合は取れているか | 躯体断面、荷重の作用位置(橋軸方向、橋軸直角方向)、設計水位等の与条件が整合できているか確認。 |
| | 53 | コンクリート1m ³ 当たりの鉄筋量は妥当か | 鉄筋量が標準的な範囲内で適当であるか確認。(例:フーチング90kg/m ³ 、躯体:160kg/m ³ 程度) |